（２）地域特性を的確に把握できる水環境指標

＜水環境を構成する要素＞
水質・水量・水生生物・水辺地・様々な水の利用・快適性・地域・歴史・文化　など

現在の環境基準→　**水質**の目標

水環境を考えるための新たな視点、水環境の状態や、水環境保全活動の成果を測る際のものさしが必要

これまでの取組事例

名水百選
［評価事項］
①水質・水量
②周辺環境の状況（周囲の生態系や保全のための配慮など）
③親水性・近づきやすさ（水への近づきやすさや安全性を重視）
④水利用の状況（水利用の伝統を含む）
⑤保全活動（保全活動の内容・効果を重視）
⑥その他の特徴・PRポイント（故事来歴や希少性など）

快水浴場百選
［評価事項］
①美しい水辺
②清らかな水辺
③安らげる水辺
④優しい水辺
⑤豊かな水辺

水環境の健全性指標
［基本的考え方］
①水環境の健全性指標で重視すること
②対象とする水環境
③水環境を評価する視点
④指標の活用の仕方

河川管理者が河川や湖沼の水質・環境上の諸課題を把握するための管理指標
［河川水質管理の視点と河川水質の確保すべき機能］
○人と河川との豊かなふれあいの確保＜快適性・安全性＞
○豊かな生態系の確保＜生息・生育・繁殖＞
○利用しやすい水質の確保
＜上水利用・農業用水・工業用水・水産用水＞

これら指標の活用事例や調査方法の改善などについて情報収集・検討
↓
水量や水辺地等を含めた水環境の構成要素からみて望ましい水環境を実現させる取組を行う際の目標として活用

5－4．（1）水環境のモニタリングとデータの蓄積・情報共有

＜モニタリングによる水環境の状況の把握＞

モニタリングの効率化・重点化

・流域の地質分布、化学物質の使用状況、水道や農業用水の利水状況等を踏まえたモニタリング地点の設定

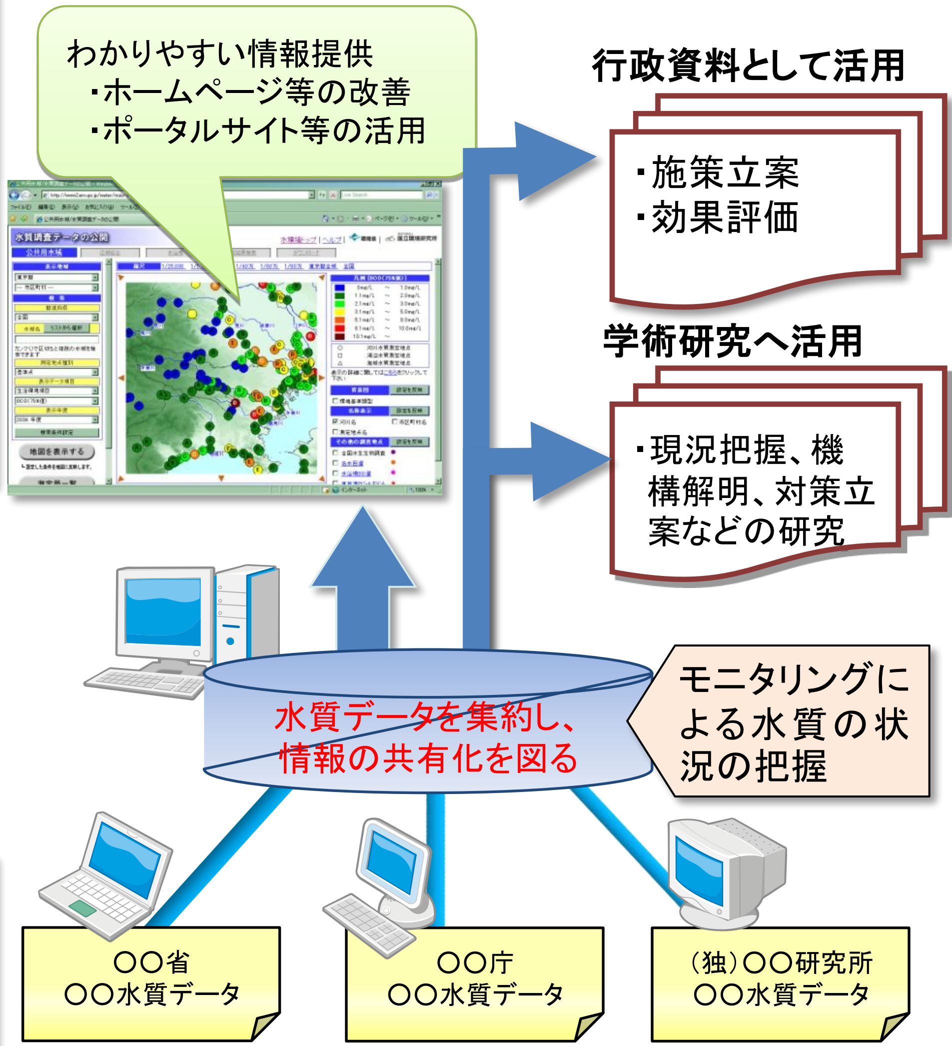
「望ましい水環境像」や「水環境保全の目標」を踏まえた項目（水質、水量、水辺地、水生生物等）についてモニタリングを実施

水環境の状況の把握

＜水環境に係るデータの蓄積＞

モニタリング結果等のデータを蓄積し、今後の水環境行政や学術研究の推進に各省庁、大学、関係機関等が活用するとともに、広く国民に対して水環境の状況を公表する。

＜水環境関連情報の集約＞

各省庁等における水環境関連情報について、その内容や所在を整理し、それらの情報を一元的に集約する。

【例：水質データの蓄積と情報共有】